

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671300444		
法人名	医療法人敬和会		
事業所名	グループホーム那賀川たんぽぽ		
所在地	徳島県阿南市那賀川町今津浦71番地の1		
自己評価作成日	平成29年1月8	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成29年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

行事や食事、四季折々の花で季節を感じて頂けるよう配慮し、利用者、職員共に喜怒哀楽を分かち合えるような関係づくりを心がけています。ドライブ、買い物、お誕生会、おやつレク、地域の子供センターとの交流会等の行事も多く取りいれて楽しんでいます。食事は季節に応じて旬の食材を使用し利用者一人ひとりにの体調や嚥下状態に応じて提供し季節や好みに応じた献立を作成し、食事により生活を楽しんでいただける様工夫しています。運営推進会議には駐在所の警察官や民生委員等が参加され情報交換を行い、静かな田園に囲まれた環境の中、家庭的な雰囲気の中で安全に、安心して過ごしていただける様努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、代表者や管理者、職員間で地域密着型サービスの意義と事業所の理念を踏まえ、利用者の尊厳や一人ひとりの思いを大切に支援している。家庭的な雰囲気づくりに努め、利用者一人ひとりが穏やかに楽しく暮らすことができるよう配慮している。同一法人の運営する医療機関と密に連携を図り、往診や訪問看護、夜間の緊急対応の体制を整備している。利用者と職員で地域の行事に参加したり、外出支援を積極的に行ったりしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月初め朝礼時に理念を唱和し、共有している。その都度理念の意味を振り返り、実践できているか確認するよう努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成している。朝礼時に職員間で理念について話し合うなどして、目指すべき方向を再確認するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地元の小・中学校の古紙回収等に参加し、子供センターとの交流もある。利用者と一緒に事業所のお便りを配布したり、畑でとれた野菜の差し入れもあり地域とのつながりがある。	日頃から、利用者と職員で近隣の神社に出かけたり、廃品回収に協力したりして、地域との交流を図っている。また、近くの住民へ手作りおやつを配ったり、小・中学校の運動会に職員とともに参加したりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者のご近所への事業所便りを配布する等、日頃の近所付き合いを通じて地域の方への認知症への理解や利用者の暮らしぶりを知って頂いたり、オレンジカフェ羽那カフェに参加、開催して地域に貢献出来る様努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月1回運営推進会議を開催し、事業所の取り組みを報告し意見交換を行っている。地域の駐在所の警察官の参加もあり、出席者による情報交換の場にもなり、より良いサービス向上に活かせるように努めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。多くの利用者と家族、地域住民の代表、派出所の警察官、町担当者などの出席を得ている。出席者と、日々のケアや防災・防犯などについて話し合っている。出された意見については、職員間で話し合い、改善策を立てるなどしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、市担当窓口を訪問し事業所便りを届け、事業所の利用状況や活動状況等実情を伝え、協力体制を築いている。疑問や相談時はその都度対応してもらっている。	毎月、職員は町担当窓口を訪問し、実績報告書を提出している。その際、事業所の運営や困難事例等について相談するようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が体拘束の内容と弊害を認識し、身体拘束をしないケアを目標に掲げ、実践に取り組んでいる。利用者一人ひとりの状態を見極め安全面に配慮し自由な暮らしを支援出来る様努めている。	事業所では、職員が拘束の具体的な内容やその弊害を正しく理解することができるよう、職場内研修の機会を設けている。また、外部の研修会にも参加することができるようにしている。帰宅願望のある利用者が外出を希望したときなどには、職員が付き添い、不安を軽減するよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は、虐待防止に関する研修等により学び、虐待について常に話し合いを行い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修や資料により理解を深めるようにし、必要とされる利用者が活用できるよう支援に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に十分に説明し、同意を得た上で理解、納得され契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族等、運営推進会議等により出された意見や要望、苦情等は管理者と職員で話し合い運営に反映し、利用者やご家族等から何でも言ってもらえるような関係を築けるよう心掛けている。	家族の来訪時には職員から話しかけるよう努め、意見や要望等を聞いている。本人や家族から出された意見や要望等は職員間で話し合い、事業所の運営面や介護計画に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎日のミーティング時や月末の反省会等、常に意見交換できるようにしている。また職員の気づきやアイデア等を運営に取り入れ、話し合い、良い方向に持っていけるように努めている	カンファレンスの際などに、管理者と職員間で話し合うようにしている。また、日頃の業務を通じて職員の意向を把握するよう努めている。管理者は、把握した職員の意向を代表者に伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの実績や努力を昇給に反映させ、向上心を持って仕事ができるよう配慮する等働きやすい環境づくりの整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月施設内研修を実施している。外部の研修にも参加したり、外部者の講演会を開く等して技術や知識を身につけ職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームを行き来し交流会を行い、親睦を深めたりお互いの情報交換等を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	これまでの生活状態等を把握し、利用者本人の話を良く聞き、観察して、安心して生活出来るような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族の困っている事や要望を伺い、対応出来る事をよく話し合い、信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と話し合いを繰り返し行い、必要な支援を見極め他のサービスも利用出来るよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者、職員の関係でなく、共に生活をし何でも話が出来、一緒に笑い一緒に泣ける、お互いに励まし合えるような関係を作れるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の家族に送付する事業所便りに各担当の職員が利用者の様子や気づきを書いて伝えている。家族との情報交換や連携を図り共に利用者を支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の祭りや行事に参加し、昔ながらの人や場所に出会ったり、また親戚、友人、昔馴染みの人等の来訪があり、行き付けの美容院に通う利用者もある。これまでの係わりを継続出来るよう支援している。	事業所では、利用者の行きつけの美容院や飲食店、地域のお祭り、行事等への参加を支援している。また、家族の協力を得たうえで、親戚や友人との交流、また墓参りなども支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者一人ひとりの性格や利用者同士の関係を見極め、会話の中に入ったり見守りしながら、共に生活を楽しめるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて、相談や支援を行い、他の事業所に移る場合には移り住む先に介護サマリーを提供して情報交換を行っている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の利用者との関わりの中で言葉や表情から希望や、意向の把握に努めている。話しやすい雰囲気を作り、利用者の立場になって考えた支援が出来るよう取り組んでいる。	職員は、日頃の利用者との関わりの中で、一人ひとりの意向を把握するように努めている。意思疎通が困難な利用者には、表情や些細な仕草の変化から意向を把握するよう努めたり、家族等から情報を得たりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、本人や家族から情報収集して生活歴を把握し、利用者が自分らしい暮らしが出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が常に利用者の心身状態の把握に努め、利用者一人ひとりの状態を確認し、記録して共有している。生活の中で有する力を見出し、活かせるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎週木曜日に家族を交えたケアカンファレンスを行い、だされた要望や意見をもとに3ヶ月毎に見直しして現状に応じた介護計画を作成している。	本人や家族、主治医、その他の関係者の意見等を介護計画に反映している。その人らしい暮らしを続けるための介護計画となるよう、3か月に1回、計画を見直している。また、週1回、家族を交えてカンファレンスを行い、利用者の状況やニーズを共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの個人ファイルを作成して日々の様子や状況、気づきを記録し全職員で共有して職員間のケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との連携を図り、その時々に応じたサービスがに対応できる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センター、市役所の職員、民生委員、駐在所の警察官が参加して情報交換を行い、協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関での受診を希望する家族が多く、協力医の訪問診療があり緊急時の協力体制も整えている。これまでのかかりつけ医や歯科、眼科等受診する場合は家族や職員が付き添っている。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。家族と相談したうえで専門医の受診も支援している。また、協力医療機関と連携を図り、往診や訪問看護、夜間の緊急対応の体制を築くなどして、利用者や家族の安心に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で利用者の状態変化や異常の早期発見に努め、常に看護職や訪問看護相談し援助を受けている。訪問看護と24時間連携体制が整っており適切な医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関との連携が充実し入院した際、家族と相談しながらケアについての話し合いを行い、安心して入院治療をうけられる様に支援している。他の医療機関に入院する場合は本人に関する情報の提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との間で契約時に重度化した場合の方針について説明を行い同意を得ている。段階ごとに医師、家族と連携を図りながらより良いケアが出来るよう支援している。	契約時の段階で、本人や家族に重度化した場合や終末期の支援のあり方について説明し、意向を確認している。本人や家族の意向を最優先とし、最後まで事業所で暮らしたいという希望があれば、家族の協力を得たうえで、地域の関係者とともチームで支援する体制を整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が事故発生時には適切な連絡、対応が出来るように職員研修等で定期的な訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画を作成し、年2回日中、夜間を想定した防災、避難訓練を実施している。運営推進会議では津波対策等、災害時の話し合いを行い、地域との協力体制を築いている。一緒に訓練を行えるよう取り組んでいきたい。	年2回、事業所独自の避難訓練を実施している。日中と夜間を想定した訓練となっており、地域住民との協力体制も築いている。災害時の具体的な計画や避難経路、備蓄等についても検討を進めている。	

自己	外部	項目	1F		
			自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念のもと、常に利用者の立場になり、支援が出来る様に努めている。本人の気持ちを考えた言葉かけや対応を心掛けている。全職員で実践できるよう努力している。	職員は、利用者や家族のプライバシーの確保についてミーティング等の機会に話し合っている。利用者の尊厳や自己決定に配慮した言葉かけ、一人ひとりのその人らしさを尊重した支援、自尊心を傷つけないケアなどを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で利用者一人ひとりを良く見て、よく知るように努め、本人が何がしたいか何が食べたいか等の自己決定がしやすいように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や気分を考慮し、個々のペースに合わせた支援が出来るよう努めているが職員側の都合で決めている事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院を利用したり、事業所に出向いて着てくれる美容師にカットしてもらっている。一人ひとりの好みを尊重しその人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞いたり、旬の食材を取り入れ献立を立て、職員と同じテーブルを囲み楽しく食事が出来るよう工夫し、調理や片付け等出来る事を共に行っている。ハレの日にはその日に合った献立を提供している。	事業所では、利用者と職員でテーブルを囲んで食事をとっている。日頃の利用者との関わりの中で、一人ひとりの希望を把握し献立に取り入れている。旬の食材を活かすなどして季節感のある献立となるよう配慮している。利用者と職員で、野菜の皮むきや配膳、下膳、テーブル拭き等、食事の準備や調理を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養を考えた献立をたて、利用者の好みや、習慣、食事の様子を把握しながら個々に合った食事の摂り方や食器等を工夫し嚥下状態に応じてミキサー食や刻み食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを呼びかけ自力で出来る人は声かけと見守り、困難な人は介助を行い利用者によっては口腔ケア用のウェットティッシュを使用している。週1回歯ブラシの消毒、入れ歯洗浄剤を使い清潔を保つように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	羞恥心や不安を軽減するよう配慮するよう努め、排泄チェック表や、見守りにより一人ひとりの排泄習慣を把握しトイレ誘導を行い、身体機能に応じて介助し、オムツを使用しないトイレでの排泄を支援している。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握したうえでトイレ誘導を行っている。自然に排泄することができるよう、運動や食べ物・水分摂取量にも配慮しつつ、なるべくトイレで排泄することができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表によりひとり1人の排便の状況を把握し、自然排便を促すために野菜を多く取り入れた献立や乳製品を毎日摂取出来る様になっている。水分チェック表により水分補給の確認を行い、機能訓練等により運動不足に気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望や体調に合わせて浴槽につかれたい、シャワー浴や足浴を行い、柚子湯や菖蒲湯で季節を感じて頂き、入浴を楽しまれるよう支援している。入浴を嫌がる利用者にはその人に合った声かけや対応を考え意見を出し合いながら行っている。	事業所では、あらかじめ入浴の可能な時間帯等を定めてはいるが、その日の利用者の希望に応じて入浴することができるよう支援している。入浴が苦手の利用者には、時間帯をずらしたり、職員を代えて声かけをしたりして、本人が納得して気持ち良く入浴することができるよう配慮している。菖蒲湯や柚子湯を楽しんでもらうこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活習慣や体調を重視し、午睡されたり、自然な生活リズムがつかれるよう日々の過ごし方、係わり方を見直し、工夫しその人に合った睡眠や休息が出来るよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの服薬ファイルを作成し効能や副作用の説明を全職員が把握できるようにし、処方の変更がある場合は、状態変化の観察に努めている。服薬時はきちんと服薬できているか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫い物や食事作り、おやつレクの時等毎日の生活の中で、利用者の経験や知恵を発揮して手伝って頂いている。これまでの生活歴から一人ひとりに合った楽しみや嗜好を見出し楽しんでもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望や体調に合わせて外食や、季節に応じた外出を行っている。買い物やドライブ、花見に出かけたり地域の行事に参加している。ご近所を散歩したり事業所の庭での外気浴も行い、家族と買い物や食事等の外出される利用者もいる。	事業所では、天候や利用者の希望、体調に合わせて、利用者と職員で散歩や買物、外食、地域行事、お花見等に出かけている。天候の良い日には外食を楽しんだり、花見に出かけたりしている。家族の協力を得たうえで、外出や外泊ができるよう自由な外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて、家族と話し合い、個々に応じたお金の管理方法を決め、買い物等にお金を使われている。好きなものや必要なものにお金を使われるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人ひとりの能力に応じて、年賀状を書いていたが、家族の協力を得て、プライバシーに配慮しながら電話や手紙を出すための支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭や玄関に季節の花を置き、常に季節を感じる事が出来、普段自宅で過ごされているような家庭的な雰囲気のある共有空間作りを心掛けている。	事業所内には、雛人形や生け花を設置するなどして季節感に配慮している。壁面には、利用者やボランティアの作品を飾っている。皆で過ごす食堂や畳の間、ソファなどもあり、利用者が思い思いの場所で過ごすことができるよう環境整備を行っている。また、明るさや音にも配慮しており、利用者にとって居心地の良い場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や2階の踊り場にもソファを置き、気の合う利用者同士で話をしたり、利用者一人ひとり談話コーナーでくつろがれたりテレビを見られたりして落ち着いた生活が出来るよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた馴染みのものや好きなものを持ち込んでもらい自宅の延長で生活して頂けるよう一人ひとりに応じて、畳の間や洋間等利用者の好みや身体状況に合わせて居心地良く過ごせるよう配慮している。	事業所では、和室と洋室を用意しており、利用者の意向に応じて選択することができるようにしている。利用者が落ち着いて過ごすことができるよう、本人や家族と話し合ったうえで、居室に利用者一人ひとりの使い慣れた物品を持ち込んでもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員が利用者一人ひとりに合わせた生活を送れる様、常に話し合いを行い個々に応じた安全な環境を作れるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、理念を共有し実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの訪問や地域の行事への参加、事業所の行事等に招待して交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日頃の近所付き合いをや事業所の行事等により地域の方へ認知症の理解や利用者の暮らしぶりを知って頂き意見を伺ったりして地域に貢献出来るよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や地域の方々と意見交換や事業所の取り組み内容の報告を行い、サービス向上に反映させるよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月し担当窓口を訪問し事業所便りを届け利用状況や活動状況等を伝え情報収集や意見交換を行って、協力関係を築くよう取り込んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束の内容と弊害を確認し、身体拘束をしないケアを目標に掲げ、実践に取り組んでいる。利用者一人ひとりの状態を見極め安全面に配慮し自由な暮らしを支援できるよう努めている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、職員に施設内研修で虐待防止に関する研修を行い学ぶ機会を多く持ち防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	2F	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と職員は、施設内研修により学び必要とされる利用者が活用できるよう支援に繋げている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に十分説明し、同意を得た上で理解、納得され契約している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から出された意見や要望は管理者や職員で話し合い記録に残し、運営に反映させている。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング時等職員と自由に意見交換出来るように努め運営に反映出来るよう努めている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの実績や努力を昇給に反映させ、向上を持って仕事出来るように配慮し、働きやすい環境づくりに努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月施設内研修を実施し、全職員の質の向上に努め外部の研修に参加したり、外部者の講演会を開く等知識や技術を身につける様支援している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの交流会を行い情報交換やサービスの質の向上に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	2F	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の不安等を解消し、案して頂ける様、話を良く聞き、観察してより良い関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に利用者本人や家族と話し合いをし、要望や意見を聞きとり信頼関係を築けるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と話し合いを行い、必要な支援を見極め他のサービスも利用できる様支援している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活をし信頼関係を築き、何でも話が出来る、家族の様な関係が出来るよう努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所便りに各担当の職員が利用者の様子や気づきを書いて伝えている。家族とに連携を図り家族の意見と本人の意見が互いに反映され共に利用者を支えていけるような関係づくりに務めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族y友人、親戚等とに面会の時間は決められておらず24時間可能となり宿泊することも出来る。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者一人ひとりの性格や利用者同士の関係を見極め、共に生活を楽しめるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりがその人らしく生活できるように利用者の立場になり考え話し合い支援出来るよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報収集しセンター方式を利用してプライバシーを配慮しながら、利用者が自分らしい暮らしが出来るよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が常に利用者の心身状態の把握に努め、状態を確認し記録している、日々の気づきを見落とさないようにし、有する力を活かせるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎週木曜日に家族を交えたケアカンファレンスを行い、だされた要望や意見をもとに3ヶ月毎に見直しして現状に応じた介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの個人ファイルを作成して日々の様子や状況、気づきを記録し全職員で共有して職員間のケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との連携を図り一人ひとりのニーズに合わせた対応が出来る様勤めていおる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センター、市役所の職員、民生委員、駐在所の警察官が参加して情報交換を行い、協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関での受診を希望する家族が多く、協力医の訪問診療があり緊急時の協力体制も整えている。これまでのかかりつけ医や歯科、眼科等受診する場合は家族や職員が付き添っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で利用者の状態変化や異常の早期発見に努め、常に看護職や訪問看護相談し援助を受けている。訪問看護と24時間連携体制が整っており適切な医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関との連携が充実し入院した際、家族と相談しながらケアについての話し合いを行い、安心して入院治療をうけられる様に支援している。他の医療機関に入院する場合は本人に関する情報の提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は医師の指示の下、訪問看護による処置が受けられる体制を整え契約時にターミナルケアが安心して受けられるよう説明し同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が緊急時に備え適切な対応が出来る様、職員研修等で定期的に初期対応や応急手当の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画を立て、年2回防災訓練を行い、発生時の対応を話し合っています。ちいきの理解と協力が得られている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が利用者ひとりひとりのプライバシーの配慮した声かけや対応が出来るよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者信頼関係を作り、希望や願い、好みを把握できるように努め自己決定がしやすいように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースにあわせた暮らしが出来るよう職員側の都合で決めている時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみの理美容店を利用したり出張サービスを取り入れた支援を行っている。一人ひとりに合ったおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞いたり、旬の食材を取り入れて献立をたて、職員と同じテーブルを囲み楽しく食事が出来るように工夫している。調理や片付け等できる事を共に行っている。ハレの日には時々合った行事食を楽しまれている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調や疾病に調理を行い介助方法や食器等も工夫し食事を摂りやすいように職員で話し合い工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけを行い口腔ケアを行っている。自力で出来る人は見守りし困難な人は介助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄習慣を把握し声かけを行いトイレ誘導を行い自立への支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便の状況をはあくし食事や運動の工夫をするよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望や体調に応じて浴槽につかられたりシャワー浴やチェア浴、足浴等を行い個々に合った入浴を支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣を重視し、一人ひとりに合った睡眠が出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬ファイルを作成し、服薬状況や目的を理解し、体調の変化の把握に努め服薬の支援を雄々なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中で利用者一人ひとりの力に応じて利用者の経験や知恵を発揮して頂き手伝って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望や体調に合わせ外食やドライブ等の外出の支援を行っている。家族と買い物や食事等の外出も楽しまれている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談した上で個々に応じたお金の何里方法を決めている。買い物等にお金を使われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と相談の上電話をかけたり、手紙や年賀状のやりとりが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調理の音や匂いを感じて頂いたり、床の間には季節のはなを飾っている。自宅の延長で過ごして頂けるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりがおもいおもいの場所で過ごされたり、くつろがれたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個室で畳の間や洋間があり利用者の身体状況に応じて対応している。日頃から自宅で使い慣れたものを持ち込んでもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりに合わせた生活を送れるよう支援し個々の身体状況に応じた環境を作るよう話し合い、工夫している。」		